

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
フロモキシセフナトリウム	フルマリン静注用0.5g 等	塩野義製薬(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      フロモキシセフに感性のブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 淋菌, モラクセラ                      (プランハメラ)・カタラーリス, 大腸菌, クレブシエラ属, プロテウス属, モルガ                      ネラ・モルガニー, プロビデンシア属, インフルエンザ菌, パドストレプトコッカ                      ス属, バクテロイデス属, プレボテラ属 (プレボテラ・ビビアを除く)</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症, 感染性心内膜炎                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎 (急性症, 慢性症)                      尿道炎                      腹膜炎, 腹腔内膿瘍                      胆嚢炎, 胆管炎                      パルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎                      中耳炎, 副鼻腔炎</p>	<p>1. フルマリン静注用0.5g及びフルマリン静注用1g                      通常, 成人にはフロモキシセフナトリウムとして1日1~2g (力価) を2回に分                      割して静脈内注射又は点滴静注する。                      通常, 小児には1日60~80mg (力価) /kgを3~4回に分割して静脈内注射又                      は点滴静注する。                      通常, 未熟児, 新生児には1回20mg (力価) /kgを生後3日までは1日2~3                      回, 4日以降は, 1日3~4回静脈内注射又は点滴静注する。                      なお, 年齢, 症状に応じて適宜増減するが, 難治性又は重症感染症には成                      人では1日4g (力価) まで増量し, 2~4回に分割投与する。また未熟児, 新                      生児, 小児では1日150mg (力価) /kgまで増量し, 3~4回に分割投与する。</p> <p>2. フルマリンキット静注用1g                      通常, 成人にはフロモキシセフナトリウムとして1日1~2g (力価) を2回に分                      割して点滴静注する。                      通常, 小児には1日60~80mg (力価) /kgを3~4回に分割して点滴静注す                      る。                      通常, 未熟児, 新生児には1回20mg (力価) /kgを生後3日までは1日2~3                      回, 4日以降は, 1日3~4回点滴静注する。                      なお, 年齢, 症状に応じて適宜増減するが, 難治性又は重症感染症には成                      人では1日4g (力価) まで増量し, 2~4回に分割投与する。また未熟児, 新                      生児, 小児では1日150mg (力価) /kgまで増量し, 3~4回に分割投与する。</p>
ラタモキシセフナトリウム	シオマリン静注用1g	塩野義製薬(株)	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ラタモキシセフに感性の大腸菌, シトロバクター属, クレブシエラ属, エンテロバク                      ター属, セラチア属, プロテウス属, モルガネラ・モルガニー, プロビデンシア属,                      インフルエンザ菌, バクテロイデス属, プレボテラ属 (プレボテラ・ビビアを除く)</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症                      急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎, 腎盂腎炎                      腹膜炎                      胆嚢炎, 胆管炎, 肝膿瘍                      子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎                      化膿性髄膜炎</p>	<p>通常, 成人には1日1~2g (力価) を2回に分割して静脈内注射又は点滴静注                      する。                      通常, 小児には1日40~80mg (力価) /kgを2~4回に分割して静脈内注射又                      は点滴静注する。                      なお, 年齢, 症状に応じて適宜増減するが, 難治性又は重症感染症には,                      成人では1日4g (力価), 小児では1日150mg (力価) /kgまで増量し, 2~4                      回に分割投与する。</p>
セフスロジンナトリウム	タケスリン静注用0.5g 等	武田薬品工業(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      セフスロジンに感性の緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      急性気管支炎, 肺炎, 慢性呼吸器病変の二次感染                      膀胱炎, 腎盂腎炎, 前立腺炎 (急性症, 慢性症)                      腹膜炎                      角膜炎 (角膜潰瘍を含む)                      中耳炎</p>	<p>通常, 成人にはセフスロジンナトリウムとして1日0.5~1g (力価) を, 重                      症感染症には2g (力価) を2~4回に分け, また, 小児にはセフスロジンナ                      トリウムとして1日60~100mg (力価) /kgを3~4回に分けて静脈内に注射す                      る。                      なお, 年齢, 症状に応じ適宜増減するが, 成人の敗血症には1日4g (力価)                      まで, 小児の重症難治性感染症には1日200mg (力価) /kgまで増量するこ                      とができる。                      静脈内注射に際しては, 日局「生理食塩液」又は日局「ブドウ糖注射液」                      に溶解して用いる。                      また, 成人の場合は1回用量0.25~2g (力価) を糖液, 電解質液又はアミノ                      酸製剤などの補液に加えて30分~2時間で点滴静脈内注射を行うこともでき                      る。                      なお, 小児の場合には上記投与量を考慮した1回用量を補液に加えて30分~1                      時間で点滴静脈内注射を行うこともできる。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果		用法・用量
セフメノキシム塩酸塩	ベストコール静注用0.5g 等	武田薬品工業(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; セフメノキシムに感性的のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シト ロバクテラ属、エンテロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、 モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレブ トコッカス属、バクテ ロイデス属 &lt;適応症&gt; 敗血症 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染 膀胱炎、腎盂腎炎 腹膜炎 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎 化膿性髄膜炎</p>	<p>シロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチ ア属、プロテウス属、 モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシ ア属、インフルエン ザ菌、緑膿菌</p>	<p>&lt;成人&gt; 通常、セフメノキシム塩酸塩として1日1~2g(力価)を2回に分けて静脈内 に注射する。なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて1日4g(力価) まで増量し、2~4回に分割投与する。 &lt;小児&gt; 通常、セフメノキシム塩酸塩として1日40~80mg(力価)/kgを3~4回に分 けて静脈内に注射する。なお、年齢、症状に応じ、適宜増減するが、難治 性又は重症感染症には1日160mg(力価)/kgまで増量し、3~4回に分割投与 するが、化膿性髄膜炎には1日200mg(力価)/kgまで増量できる。  静脈内注射に際しては、日本薬局方「注射用水」、日本薬局方「生理食塩 液」又は日本薬局方「ブドウ糖注射液」に溶解して用いる。 また、成人では本剤の1回用量0.5~2g(力価)を糖液、電解質液又はアミ ノ酸製剤などの補液に加えて、30分~2時間で点滴静脈内注射を行うこと もできる。 小児では上記投与量を考慮した1回用量を補液に加えて、30分~1時間で点 滴静脈内注射を行うこともできる。</p>
アズトレオナム	アザクタム注射用0.5g 等	エーザイ(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的の淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシ ア属、インフルエンザ菌、緑膿菌 &lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎 (急性症、慢性症)、尿道炎、子宮頸管炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎 (角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎</p>	<p>シロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチ ア属、プロテウス属、 モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシ ア属、インフルエン ザ菌、緑膿菌</p>	<p>通常、成人には、1日1~2g(力価)を2回に分けて静脈内注射、点滴 静注又は筋肉内注射する。ただし、通常、淋菌感染症及び子宮頸管炎に は、1日1回1~2g(力価)を筋肉内注射又は静脈内注射する。 通常、小児には、1日40~80mg(力価)/kgを2~4回に分けて静脈内注射 又は点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には、 成人では1日量4g(力価)まで増量し2~4回に分けて投与し、小児では 1日量150mg(力価)/kgまで増量し3~4回に分けて投与する。 通常、未熟児、新生児には、1回20mg(力価)/kgを生後3日までは1日 2回、4日以降は1日2~3回静脈内注射又は点滴静注する。</p>
カルモナムナトリウム	アマスリン静注用1g 等	武田薬品工業(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的の淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、シトロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシ ア属、インフルエンザ菌、緑膿菌 &lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎 (急性症、慢性症)、尿道炎、子宮頸管炎、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎 (角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎</p>	<p>シロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチ ア属、プロテウス属、 モルガネラ・モルガ ニー、プロビデンシ ア属、インフルエン ザ菌、緑膿菌</p>	<p>通常成人にはイミベネムとして、1日0.5~1.0g(力価)を2~3回に分 割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。 小児には1日30~80mg(力価)/kgを3~4回に分割し、30分以上かけて点滴 静脈内注射する。 なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、成 人で1日2g(力価)まで、小児で1日100mg(力価)/kgまで増量するこ とができる。</p>
イミベネム/シラスタ ンナトリウム	チエナム点滴静注用0.25g 等	万有製薬(株) 等	<p>&lt;適応菌種&gt; イミベネムに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸 球菌属、大腸菌、シ トロバクテラ属、クレブシエラ属、エンテロバクテラ属、セラチ ア属、プロテウス 属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエ ンザ菌、シュドモナ ス属、緑膿菌、バークホルデリア・セバシア、アシネトバクテ ラ属、ペプトストレブ トコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属 &lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、急 性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、 前立腺炎(急性症、慢性症)、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、 子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼内炎 (全眼球炎を含む)</p>	<p>腸球菌属、大腸菌、シ トロバクテラ属、クレ ブシエラ属、エンテ ロバクテラ属、セラチ ア属、プロテウス 属、モルガネラ・モ ルガニー、プロビデ ンシア属、インフル エンザ菌、シュドモ ナス属、ペプトスト レプトコッカス属、 バクテロイデス属、 プレボテラ属</p>	<p>通常成人にはイミベネムとして、1日0.5~1.0g(力価)を2~3回に分 割し、30分以上かけて点滴静脈内注射する。 小児には1日30~80mg(力価)/kgを3~4回に分割し、30分以上かけて点滴 静脈内注射する。 なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、成 人で1日2g(力価)まで、小児で1日100mg(力価)/kgまで増量するこ とができる。</p>

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
ドリベネム水和物	フィニバックス点滴用0.25g等	塩野義製薬(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      ドリベネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属(エンテロコッカス・フェシウムを除く)、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、感染性心内膜炎                      深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎                      外傷・熱傷及び手術創等の二次感染                      骨髄炎、関節炎                      咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)                      肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染                      複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)                      腹膜炎、腹腔内膿瘍                      胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍                      子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎                      眼窩感染、角膜炎(角膜炎を含む)、眼内炎(全眼球炎を含む)                      中耳炎                      顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>通常、成人にはドリベネムとして1回0.25g(力価)を1日2回又は3回、30～60分かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、投与量の上限は、1回量として0.5g(力価)、1日量として1.5g(力価)までとする。</p>
パニベネム/ベタミブロン	カルベニン点滴用0.25g等	第一三共(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt;                      パニベネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バクホルデルリア・セバシア、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、感染性心内膜炎、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症)、精巣上体炎(副睾丸炎)、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼窩感染、眼内炎(全眼球炎を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、顎骨周辺の蜂巣炎、顎炎</p>	<p>成人には通常、パニベネムとして1日1g(力価)を2回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症又は難治性感染症には、1日2g(力価)まで増量し2回に分割し投与することができる。ただし、成人に1回1g(力価)投与する場合は60分以上かけて投与すること。                      小児には通常、パニベネムとして1日30～60mg(力価)/kgを3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症又は難治性感染症には、1日100mg(力価)/kgまで増量し3～4回に分割して投与できる。ただし、投与量の上限は1日2g(力価)までとする。</p>
ピアベネム	オメガシン点滴用0.3g	明治製薬(株)	<p>&lt;適応菌種&gt;                      本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属(エンテロコッカス・フェシウムを除く)、モラクセラ属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、フソバクテリウム属</p> <p>&lt;適応症&gt;                      敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、子宮旁結合織炎</p>	<p>通常、成人にはピアベネムとして1日0.6g(力価)を2回に分割し、30～60分かけて点滴静脈内注射する。                      なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。ただし、投与量の上限は1日1.2g(力価)までとする。</p>

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
メロベネム水和物	メロベネム点滴用バイアル0.25g 等	大日本住友製薬(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; メロベネムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、バークホルデリアイデス属、プレボテラ属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肛門周囲膿瘍、骨髄炎、関節炎、扁桃炎(扁桃周囲膿瘍を含む)、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、眼内炎(全眼球炎を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、顎骨周辺の蜂巣炎</p>	<p>本剤の使用に際しては、投与開始後3日を目安としてさらに継続投与が必要か判定し、投与中止又はより適切な他剤に切り替えるべきか検討を行うこと。</p> <p>さらに、本剤の投与期間は、原則として14日以内とすること。</p> <p>通常成人にはメロベネムとして、1日0.5~1g(力価)を2~3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1日2g(力価)まで増量することができる。</p> <p>通常小児にはメロベネムとして、1日30~60mg(力価)/kgを3回に分割し、30分以上かけて点滴静注する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減するが、重症・難治性感染症には、1日120mg(力価)/kgまで増量することができる。ただし、成人における1日最大用量2g(力価)を超えないこととする。</p>
アミカシン硫酸塩	硫酸アミカシン注射液「萬有」1100mg 等	日医工(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; アミカシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>[筋肉内投与の場合] 通常、成人1回アミカシン硫酸塩として100~200mg(力価)を1日1~2回筋肉内投与する。小児は、アミカシン硫酸塩として1日4~8mg(力価)/kgとし、1日1~2回筋肉内投与する。</p> <p>なお、年齢及び症状により適宜増減する。</p> <p>筋肉内投与の場合には1瓶に日局生理食塩液又は日局注射用水1~2mLを加えて溶解する。</p> <p>[点滴静脈内投与の場合] 通常、成人1回アミカシン硫酸塩として100~200mg(力価)を、1日2回点滴静脈内投与する。小児はアミカシン硫酸塩として1日4~8mg(力価)/kgとし、1日2回点滴静脈内投与する。また、新生児(未熟児を含む)は、1回アミカシン硫酸塩として6mg(力価)/kgを、1日2回点滴静脈内投与する。</p> <p>なお、年齢、体重及び症状により適宜増減する。</p> <p>点滴静脈内投与の場合には、通常100~500mLの補液中に100~200mg(力価)の割合で溶解し、30分~1時間かけて投与すること。</p>
アルベカシン硫酸塩	ハベカシン注射液25mg 等	明治製菓(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; アルベカシンに感性のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎</p>	<p>&lt;成人への投与&gt; 通常、成人にはアルベカシン硫酸塩として、1日1回150~200mg(力価)を30分~2時間かけて点滴静注する。必要に応じ、1日150~200mg(力価)を2回に分けて点滴静注することもできる。また、静脈内投与が困難な場合、アルベカシン硫酸塩として、1日150~200mg(力価)を1回又は2回に分けて筋肉内注射することもできる。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p> <p>&lt;小児への投与&gt; 通常、小児にはアルベカシン硫酸塩として、1日1回4~6mg(力価)/kgを30分かけて点滴静注する。必要に応じ、1日4~6mg(力価)/kgを2回に分けて点滴静注することもできる。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>
イセパマイシン硫酸塩	イセバシン注射液200 等	シェリング・プラウ(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; イセパマイシンに感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人ではイセパマイシン硫酸塩として1日400mg(力価)を1~2回に分けて筋肉内注射又は点滴静注する。</p> <p>点滴静注においては以下のとおりとする。</p> <p>1日1回投与の場合：1時間かけて注入する。</p> <p>1日2回投与の場合：30分~1時間かけて注入する。</p> <p>なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果		用法・用量
カナマイシン硫酸塩	硫酸カナマイシン注射液 1000mg「明治」等	明治製菓(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; カナマイシンに感性のブドウ球菌属、肺炎球菌、淋菌、結核菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、緑膿菌、百日咳菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、子宮付属器炎、中耳炎、百日咳、肺結核及びその他の結核症</p>		<p>[肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合] カナマイシンとして、通常成人1日2g(力価)を朝夕1g(力価)ずつ2回筋肉内注射し、週2日使用するが、または1日1g(力価)ずつ週3日使用する。 また必要に応じて局所に投与する。 ただし、高齢者(60歳以上)には1回0.5~0.75g(力価)とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあつては適宜減量する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用する。</p> <p>[その他の場合] カナマイシンとして、通常成人1日1~2g(力価)を、小児には1日体重1kgあたり30~50mg(力価)を1~2回に分けて、筋肉内注射する。 また必要に応じて局所に投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン注10 等	ジェリング・ブラウ(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; ゲンタマイシンに感性のブドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎</p>		<p>通常、成人ではゲンタマイシン硫酸塩として1日80~120mg(力価)を2~3回に分けて筋肉内注射または点滴静注する。小児では1回0.4~0.8mg(力価)/kgを1日2~3回筋肉内注射する。 点滴静注においては30分~2時間かけて注入する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
シソマイシン硫酸塩	シセプチン注射液50mg「承認 整理済」	ジェリング・ブラウ(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; シソマイシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>		<p>通常、成人では日局硫酸シソマイシンとして1日100mg(力価)を2回に分けて、筋肉内注射又は点滴静注する。点滴静注においては1~2時間かけて注入する。 また、症状により1日150mg(力価)まで増量し、2~3回に分けて筋肉内注射又は点滴静注することができる。</p>
ジベカシン硫酸塩	パニマイシン注射液50mg 等	明治製菓(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; ジベカシンに感性の黄色ブドウ球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットグリ、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、中耳炎</p>		<p>[筋注の場合] 通常、成人にはジベカシンとして、1日量100mg(力価)を1~2回に分けて、小児にはジベカシンとして、1日量1~2mg(力価)/kgを1~2回に分けて、それぞれ筋肉内注射する。</p> <p>[点滴静注の場合] 通常、成人にジベカシンとして、1日量100mg(力価)を2回に分けて、100~300mLの補液で希釈し、30分~1時間かけて点滴静注する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。</p>
ストレプトマイシン硫酸塩	硫酸ストレプトマイシン注射液1g「明治」	明治製菓(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; ストレプトマイシンに感性の結核菌、ペスト菌、野兔病菌、ワイル病レプトスピラ</p> <p>&lt;適応症&gt; 感染性心内膜炎(ベンジルペニシリン又はアンピシリンと併用の場合に限る)、ペスト、野兔病、肺結核及びその他の結核症、ワイル病</p>		<p>[肺結核及びその他の結核症に対して使用する場合] ストレプトマイシンとして、通常成人1日1g(力価)を筋肉内注射する。週2~3日、あるいははじめの1~3ヵ月は毎日、その後週2日投与する。また必要に応じて局所に投与する。 ただし、高齢者(60歳以上)には1回0.5~0.75g(力価)とし、小児あるいは体重の著しく少ないものにあつては適宜減量する。 なお、原則として他の抗結核薬と併用する。</p> <p>[その他の場合] ストレプトマイシンとして、通常成人1日1~2g(力価)を1~2回に分けて筋肉内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
トブラマイシン	トブラシン注60mg 等	東和薬品(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性の大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>&lt;成人&gt; 通常、トブラマイシンとして、膀胱炎および腎盂腎炎には、1日120mg(力価)を2回に、その他の感染症には、1日180mg(力価)を2～3回に、それぞれ分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～2時間かけて注入する。 1回90mg投与の場合には、1時間以上かけて注入することが望ましい。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p> <p>&lt;小児&gt; トブラマイシンとして、1日3mg(力価)/kgを2～3回に分割して、筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～2時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>
ネチルマイシン硫酸塩	ベクタシン注射液「承認整理済み」	シエリング・ブラウ(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; ネチルマイシンに感性のプロドウ球菌属、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、肛門周囲膿瘍、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人に硫酸ネチルマイシンとして1日150～200mg(力価)を2回に分割し、筋肉内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
ベカナマイシン硫酸塩	カネンドマイシン筋注200mg	明治製菓(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; ベカナマイシンに感性のプロドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、エンテロコッカス・フェカリス、大腸菌、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、レットゲリ、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、涙嚢炎、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎</p>	<p>通常、成人は1日量ベカナマイシン硫酸塩として400～600mg(力価)を2～3回に分けて筋肉内注射する。 また、小児・乳幼児は1日量体重1kg当りベカナマイシン硫酸塩として10～20mg(力価)を2回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。</p>
リボスタマイシン硫酸塩	ビスタマイシン筋注500mg等	明治製菓(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; リボスタマイシンに感性のプロドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、胆嚢炎、涙嚢炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、顎炎</p>	<p>通常、成人はリボスタマイシンとして1日量1.0g(力価)を1～2回に分けて、小児・乳幼児はリボスタマイシンとして1日量20～40mg(力価)/kgを1～2回に分けて、それぞれ筋肉内に注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
アストロマイシン	注射用フォーチミシン「承認整理済み」	協和発酵キリン(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; アストロマイシンに感性の黄色プロドウ球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア・インコンスタンス</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人ではアストロマイシン硫酸塩として1日400mg(力価)を2回に分割し、筋肉内投与または点滴静注する。 点滴静注においては30分～1時間かけて注入する。 なお、症状により適宜増減する。</p>
ミクロノマイシン硫酸塩	サガミシン注「承認整理済み」	協和発酵キリン(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; ミクロノマイシンに感性のプロドウ球菌属、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎</p>	<p>通常、成人に硫酸ミクロノマイシンとして、腎盂腎炎および膀胱炎には、1回120mg(力価)を1日2回、その他の感染症には、1回60mg(力価)を1日2～3回筋肉内注射または点滴静注する。 点滴静注においては30分～1時間かけて注入する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
バンコマイシン塩酸塩	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g 等	塩野義製薬(株)等	<p>1. &lt;適応菌種&gt; バンコマイシンに感性的のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) &lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、腹膜炎、化膿性髄膜炎</p> <p>2. &lt;適応菌種&gt; バンコマイシンに感性的のペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) &lt;適応症&gt; 敗血症、肺炎、化膿性髄膜炎</p>	<p>通常、成人にはバンコマイシン塩酸塩として1日2g(力価)を1回0.5g(力価)6時間ごと又は1回1g(力価)12時間ごとに分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 高齢者には、1回0.5g(力価)12時間ごと又は1回1g(力価)24時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。 小児、乳児には、1日40mg(力価)/kgを2~4回に分割して、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。 新生児には、1回投与量を10~15mg(力価)/kgとし、生後1週までの新生児に対しては12時間ごと、生後1ヵ月までの新生児に対しては8時間ごとに、それぞれ60分以上かけて点滴静注する。</p>
テイコプラニン	注射用タゴシッド200mg 等	サノフィ・アベンティス(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) &lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染</p>	<p>通常、成人にはテイコプラニンとして初日400mg(力価)又は800mg(力価)を2回に分け、以後1日1回200mg(力価)又は400mg(力価)を30分以上かけて点滴静注する。敗血症には、初日800mg(力価)を2回に分け、以後1日1回400mg(力価)を30分以上かけて点滴静注する。 通常、乳児、幼児又は小児にはテイコプラニンとして10mg(力価)/kgを12時間間隔で3回、以後6~10mg(力価)/kg(敗血症などの重症感染症では10mg(力価)/kg)を24時間ごとに30分以上かけて点滴静注する。また、新生児(低出生体重児を含む)にはテイコプラニンとして初回のみ16mg(力価)/kgを、以後8mg(力価)/kgを24時間ごとに30分以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。</p>
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン点滴静注用100mg 等	ワイス(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; ミノサイクリンに感性的の黄色ブドウ球菌、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ・ラクナータ(モラー・アクセンフェルト菌)、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、シュドモナス・フルオレッセンシス、緑膿菌、バクホルデリア・セバシア、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、フラボバクテリウム属、レジオネラ・ニューモフィラ、リケッチア属(オリエンチア・ツツガムシ)、クラミジア属、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ) &lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、炭疽、つつが虫病、オウム病</p>	<p>*点滴静脈内注射は、経口投与不能の患者及び救急の場合に行い、経口投与が可能になれば経口用剤に切り替える。 通常成人には、初回ミノサイクリン塩酸塩100~200mg(力価)、以後12時間ないし24時間ごとに100mg(力価)を補液に溶かし、30分~2時間かけて点滴静脈内注射する。 &lt;注射液調製法&gt; 本剤100mg(力価)及び200mg(力価)当たり100~500mLの糖液、電解質液又はアミノ酸製剤などに溶解する。ただし、注射用水は等張とならないので使用しないこと。</p>
ラクチビオン酸エリスロマイシン	エリスロシン点滴静注用500mg 等	アボットジャパン(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; エリスロマイシンに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌 &lt;適応症&gt; 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、ジフテリア</p>	<p>通常、成人にはエリスロマイシンとして1日600~1,500mg(力価)を2~3回に分けて1回2時間以上かけて点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
酒石酸キタサマイシン	静注用ロイコマイシン「承認整理済み」	旭化成ファーマ(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; キタサマイシンに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ属 &lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、肺炎、膿胸、胆嚢炎、猩紅熱、ジフテリア</p>	<p>通常、成人には酒石酸キタサマイシンとして1回200mg(力価)を1日2回、少なくとも5分以上かけて徐々に静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果		用法・用量
シプロフロキサシン	シプロキサシ注200mg 等	バイエル薬品(株)等	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、腸球菌属、炭疽菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、緑膿菌、レジオネラ属 <適応症> 敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、炭疽		シプロフロキサシンとして、通常、成人には1回300mgを1日2回点滴静注する。原則として、点滴静注に際しては、生理食塩液、ブドウ糖注射液又は補液で希釈して、1時間かけて投与する(30分以内の点滴静注は避ける)。
メシル酸バズフロキサシン	バシル点滴静注液300mg 等	富山化学工業(株)等	<適応菌種> バズフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属(肺炎球菌を除く)、腸球菌属、モラクセラ(プランハメラ)・カタラーリス、大腸菌、シントバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、レジオネラ属、バクテロイデス属、プレボテラ属 <適応症> 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染 肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染 複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎(急性症、慢性症) 腹膜炎、腹腔内膿瘍 胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍 子宮付属器炎、子宮旁結合織炎		通常、成人にはバズフロキサシンとして1日1000mgを2回に分けて点滴静注する。なお、年齢、症状に応じ、1日600mgを2回に分けて点滴静注するなど、減量すること。 点滴静注に際しては、30分～1時間かけて投与すること。
クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシンス注射液300mg 等	ファイザー(株)等	<適応菌種> クリンダマイシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属、マイコプラズマ属 <適応症> 敗血症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎		[点滴静脈内注射] 通常成人には、クリンダマイシンとして1日600～1,200mg(力価)を2～4回に分けて点滴静注する。 通常小児には、クリンダマイシンとして1日15～25mg(力価)/kgを3～4回に分けて点滴静注する。 なお、難治性又は重症感染症には症状に応じて、成人では1日2,400mg(力価)まで増量し、2～4回に分けて投与する。 また、小児では1日40mg(力価)/kgまで増量し、3～4回に分けて投与する。 点滴静注に際しては、本剤300～600mg(力価)あたり100～250mLの日局5%ブドウ糖注射液、日局生理食塩液又はアミノ酸製剤等の補液に溶解し、30分～1時間かけて投与する。 [筋肉内注射] 通常成人には、クリンダマイシンとして1日600～1,200mg(力価)を2～4回に分けて筋肉内注射する。 なお、症状により適宜増減する。
コハク酸クロラムフェニコールナトリウム	クロロマイセチンサクシネート	第一三共(株)	<適応菌種> クロラムフェニコールに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、大腸菌、サルモネラ属、チフス菌、パラチフス菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、軟性下疳菌、百日咳菌、野兔病菌、ガス壊疽菌群、リケッチア属、トラコマクラミジア(クラミジア・トラコマティス) <適応症> 敗血症、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、淋菌感染症、軟性下疳、性病性(鼠径)リンパ肉芽腫、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、感染性腸炎、腸チフス、パラチフス、子宮内感染、子宮付属器炎、化膿性髄膜炎、涙囊炎、角膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、猩紅熱、百日咳、野兔病、ガス壊疽、発疹チフス、発疹熱、つつが虫病		クロラムフェニコールとして、通常成人1回0.5～1g(力価)を1日2回静脈内注射する。小児には、1回体重1kgあたり15～25mg(力価)を1日2回静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。



一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
スルファジメトキシム	アブシード静注500mg 等	第一三共(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的髄膜炎菌、大腸菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 膀胱炎、腎盂腎炎、化膿性髄膜炎</p>	<p>通常成人、スルファジメトキシムとして、初日1.0~2.0g(10~20mL)、2日目以降は0.5~1.0g(5~10mL)を1日1回静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
スルファモノメトキシム	ダイメトン注「承認整理済み」	第一三共(株)	<p>&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的大腸菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 膀胱炎、腎盂腎炎</p>	<p>通常成人、スルファモノメトキシムとして、初日量1~2g(10~20mL)を1~2回に分けて、2日目以降1日0.5~1g(5~10mL)を1~2回に分けて静脈内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
セフペラゾンナトリウム	ケイペラゾン静注用1g 等	科研製薬(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; セフペラゾンに感性的肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・シニア・レットグリ、インフルエンザ菌、バクテロイデス属、</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎 肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染 膀胱炎、腎盂腎炎 腹膜炎 胆嚢炎、胆管炎 バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎</p>	<p>セフペラゾンナトリウムとして、通常成人には1日1~2g(力価)を、2回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。小児には通常1日40~80mg(力価)/kgを2~4回に分けて静脈内注射又は点滴静注する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、難治性又は重症感染症には成人では1日4g(力価)、小児では1日120mg(力価)/kgまで増量することができる。 静脈内注射の際には、日局注射用水、日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液に溶解し緩徐に注射する。 また補液に加えて点滴静注することもできる。</p>
ホスホマイシンナトリウム	ホスミシンS静注用0.5g 等	明治製薬(株)等	<p>&lt;適応菌種&gt; ホスホマイシンに感性的ブドウ球菌属、大腸菌、セラチア属、ネラ・モルガニー、プロビデンシア・レットグリ、緑膿菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎</p>	<p>[点滴静脈内注射] 通常、成人にはホスホマイシンとして1日2~4g(力価)、また小児には1日100~200mg(力価)/kgを2回に分けて、補液100~500mLに溶解して、1~2時間かけて静脈内に点滴注射する。</p> <p>[静脈内注射] 通常、成人にはホスホマイシンとして1日2~4g(力価)、また小児には1日100~200mg(力価)/kgを2~4回に分けて、5分以上かけてゆっくり静脈内に注射する。溶解には日局注射用水又は日局ブドウ糖注射液を用い、本剤1~2g(力価)を20mLに溶解する。 なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。</p>
リネゾリド	ザイボックス注射液600mg	ファイザー(株)	<p>1.&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎</p> <p>2.&lt;適応菌種&gt; 本剤に感性的バンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム</p> <p>&lt;適応症&gt; 各種感染症</p>	<p>通常、成人にはリネゾリドとして1日1200mgを2回に分けて、1回600mgを12時間ごとに、それぞれ30分~2時間かけて点滴静注する。</p>

調査対象医薬品一覧

別添1

一般名	販売名	承認取得者	効能・効果	用法・用量
リンコマイシン塩酸塩水和物	リンコシン注射液300mg 等	ファイザー（株）等	<p>&lt;適応菌種&gt; リンコマイシンに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属</p> <p>&lt;適応症&gt; 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、乳腺炎、骨髄炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、化膿性髄膜炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱</p>	<p>[静脈内注射] リンコマイシン塩酸塩水和物として、通常成人は、1回600mg（力価）を1日2～3回点滴静注する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p> <p>[筋肉内注射] リンコマイシン塩酸塩水和物として、通常成人は、1回300mg（力価）を1日2～3回、又は1回600mg（力価）を1日2回筋肉内注射する。 小児には、1回体重1kgあたり10～15mg（力価）を1日2～3回筋肉内注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
塩酸スペクチノマイシン	トロピシン注 等	ファイザー（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; スペクチノマイシンに感性的の淋菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 淋菌感染症</p>	<p>[筋注] スペクチノマイシンとして、通常成人は2g（力価）を1回臀部筋肉内に注射する。また、2g（力価）1回投与にて効果の不十分なときは、4g（力価）を1回追加投与する。4g（力価）投与は左右の臀部の2箇所に分けてもよい。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
エンビオマイシン硫酸塩	ツベラクチン筋注用1g	旭化成ファーマ（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; エンビオマイシンに感性的の結核菌</p> <p>&lt;適応症&gt; 肺結核及びその他の結核症</p>	<p>通常成人には、エンビオマイシン硫酸塩として1日1回1g（力価）を注射用蒸留水に溶解〔1g（力価）当り2～4mL〕し、筋肉内に注射する。 初めの90日間は毎日、その後は1週間に2日投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。 また、他の抗結核剤と併用することが望ましい。</p>
キヌプリスチン/ダルホプリスチン	注射用シナシッド	サノフィ・アベンティス（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; キヌプリスチン・ダルホプリスチンに感性的のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム</p> <p>&lt;適応症&gt; 各種感染症</p>	<p>通常、成人にはキヌプリスチン・ダルホプリスチンとして、1回7.5mg/kg、1日3回、60分かけて点滴静注する。本剤の溶解には5%ブドウ糖液又は注射用水を用い、希釈には5%ブドウ糖液を用いること。糖尿病患者に対しては10%マルトース液を用いてもよい。なお、生理食塩液やヘパリン含有液は用いないこと。</p>
セフチゾキシムナトリウム	エポセリン坐剤125 等	長生堂製薬（株）	<p>&lt;適応菌種&gt; セフチゾキシムに感性的のレンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロピデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ・メラニोजェニカ</p> <p>&lt;適応症&gt; 急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎</p>	<p>通常、小児に体重kg当りセフチゾキシムとして1日20～70mg（力価）を、3～4回に分けて肛門内に挿入する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>
サラゾスルファピリジン	サラゾピリン坐剤500	ファイザー（株）	潰瘍性大腸炎	<p>通常、成人には1回1～2個を1日2回、朝排便後と就寝前に、肛門内に挿入する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>